

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第11回相模原市立小中学校の望ましい学校規模のあり方検討委員会				
事務局 (担当課)		学務課 電話042-769-8282(直通)				
開催日時		平成28年10月14日(金) 15時00分～16時00分				
開催場所		相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	10人(教育環境部長、教育総務室長、学務課長、 学校施設課長、学校教育課長、教職員課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会あいさつ 2 議題 (1) 提言書(案)について (2) その他 3 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言)

1 開会あいさつ

小松会長あいさつ

2 議題

(1) 提言書 (案) について

提言書 (案) について、事務局から概要説明を行った。

事務局から提言書の案について説明があったが、事前に委員の皆様にご覧いただいた際には、大きな修正が必要なご意見はなかったと聞いている。

本日、追加で修正のご意見などはあるか。

8 ページの表 4 のタイトルについて、「学校規模が教育環境に与える影響」ではなく、「学校規模が教育に与える影響」の方がふさわしいのではないかと聞いている。

2 点目として、12 ページに「学校規模に起因しない関連課題」とあるが、「学校規模に起因しない課題」が良いのではないかと聞いている。

また、表 6 のいくつかの項目は、学校規模の問題ではないかと考えるが如何か。

日本では一般的に学校規模は学級数として捉えており、検討委員会でもそのように扱ってきた。

例えば、表 6 に記載がある教職員の配置人数の問題は、基本的には学級数を基準に配置がなされるが、各自治体の判断で追加の教職員を配置することも可能であり、予算や行政施策の問題である面が強い。

そういった意味で、「関連課題」としてしていると認識しているがどうか。

そのようにご整理いただいていたと認識している。

小規模の中学校で 9 教科の担任が揃わない学校であっても、追加の配置によって補うことで解決している事例がある。

追加の配置があったとしても、必要な教科数分の教職員が配置されていない現状があることをしっかり認識して欲しい。

関連して、24 ページの表 10 の記載で、教職員の配置について記載されているが、別の施策の問題として取り扱うべきではないかと聞いている。

許可を受けたうえではあるが、小規模の学校は全て、免許外指導が発生しているはずである。

校長会として、教育委員会に対して教科数分の教職員を配置するように要望しているところである。

12ページの上部に記載があるとおり、学級数よりも、他の要素が主たる原因となっている課題について、表6のとおりご整理いただいたと認識している。

教員の定数問題は、学級数と関連する事項ではあるが、行政施策によって必要な人数を配置することが可能なはずである。

よって、学校規模以外の要因が強い課題であると考えている。

そういった意味で、現在の記載であまり違和感はないが如何か。

本検討委員会のメインテーマである学校規模とは関連がありつつも、少し違った視点で解決しなければならない課題について、このように整理したことは意味があると考えている。

学校規模の問題をメインに扱ってきたが、関連課題を解決することによって、学校規模に係る範囲もある程度改善されるというような理解でよいのか。

トータルで子ども達の学習環境の改善に繋がるという捉え方で良いと思う。

許可を得たうえでの免許外指導は、小規模校に限らず、大規模校であっても、教職員数と授業時間数の関係で生じる問題であるので、学校規模が主要因ではないという捉えがふさわしいと考える。

また、教職員の追加配置については、国庫補助をはじめとした国の動きにも左右される部分であり、市としては引き続き定数増を国に要望するところである。

9教科の教職員を揃えることは、財政的にも国の補助がなければ難しい現状があるとは思いますが、学校現場に負担をかけないように、市としても要望を続けて欲しい。

12ページの記載については、原案のとおりとさせていただきたい。

次に、8ページの記載については如何か。

表4では、保護者や地域に対する影響も含めた、広範囲の要素について述べているので、「教育」ではなく「教育環境」という文言でご整理いただいたと認識している。

「教育環境」という文言自体は、一般的に使われるものであると認識している。

「環境」という言葉の捉え方が少し揺れ動きやすいという懸念もあるが、「教育」としてしまうと、表4の記載に対して限定的すぎるとも感じる。

学校が中心ではあるが、地域社会を含んだ内容でもあるので、「教育環境」という文言を使ってみても良いのではないか。

その他なにかご意見はあるか。

全体の構成に係ることではあるが、「学校規模に起因しない関連課題」は少し毛色が違う内容であるならば、提言書の最後に記載してはどうか。

課題の解決方策を整理するなかで、「学校規模に起因しない関連課題」を受けての記載が複数あるため、全体の整合性がとれなくなってしまう懸念があるが如何か。

私は、課題整理の一部として「学校規模に起因しない関連課題」を整理したので、原案の方が検討委員会の議論の流れを踏襲していると感じる。

この点については、原案のとおりとさせていただきたい。

26ページの記載について、全校に検討組織を設置することとされているが、緊急性があまりない学校については、形だけのものになってしまうのではないかと。

学校ごとにより温度差が生じると思うので、学校間の情報交換会などの仕組みがあれば、検討組織のモチベーションを維持できると思うが如何か。

私も同様の懸念を持っている。

学校の職員は異動によって入れ替わるものなので、学校単位だけではなく、例えば中学校区単位での検討組織を立ち上げるなどの取組はできないのか。

小学校区と中学校が一致しているエリアでは可能かもしれないが、一致していない学校も多いので、地域によって進め方は様々であると思っている。

基本的には学校単位での検討がベースとして必要だと考えるが、中学校区単位での検討が必要な段階になれば、教育委員会としても柔軟に対応したいと考えている。

各学校で考えるだけでは、戸惑うだけで終わってしまう懸念がある。

教育委員会として、議論が成立するようにサポートする方向性は持っていて欲しい。

議論を進めるための教育委員会からの十分なサポートは当然必要であるが、サポートを受けるにあたっては、地域や学校自身がある程度の現状認識や考えを持っていないといけない。

教育委員会に一任するばかりでは解決しないと思う。

私はPTAや自治会の働きにかなり期待している。

この部分の記載は原案のとおりでよろしいかと思う。

提言書(案)の全体を通して、今後、微修正があれば会長に一任していただくということにして、概ね原案のとおり、本検討委員会からの提言とすることで御承認いただいてよろしいか。

異議なし。

御承認ありがとうございます。

最終的な提言書につきましては、後日、代表して私から教育委員会へ提出させていただきます。

教育委員会におかれましては、私達の提言を受け止めて、速やかに教育環境の整備に御尽力くださるよう、お願いいたします。

皆様の御協力によりまして、無事に教育委員会に対して最終的な答申をまとめることができました。

誠にありがとうございました。

それでは、これをもちまして、相模原市立小中学校の望ましい学校規模のあり方検討委員会を閉じさせていただきます。

長期間にわたり、御審議いただき、ありがとうございました。

3 閉会

以 上

第 1 1 回相模原市立小中学校の望ましい学校規模の
あり方検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小松 郁夫	流通経済大学教授	会 長	出席
2	斎藤 文	産業能率大学教授		欠席
3	田所 昌訓	相模原市自治会連合会	副会長	出席
4	奥山 憲雄	相模原市公民館連絡協議会		出席
5	齊藤 賢一	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
6	竹内 健	相模原市立小中学校 P T A 連絡協議会		出席
7	前沢 弘之	相模原市立小中学校 P T A 連絡協議会		出席
8	森山 小百合	相模原市立小中学校 P T A 連絡協議会		出席
9	奥原 正弘	公募		出席
10	川村 康昭	公募		出席
11	近藤 ひとみ	相模原市立小学校長会		出席
12	萩原 弘則	相模原市立中学校長会		出席